

平成30年度 地域発元気づくり支援金事業総括書

事業名	歩ける木曾路再生プロジェクト
事業主体 (連絡先)	木曾町 (日義支所義仲の里振興課)
事業区分	(6)ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ハード・ソフト
総事業費	1,328,400円 (うち支援金 1,015,000円)

事業内容

木曾町日義小沢地区には、木曾家第九代代官『山村蘇門』の家老であった石作駒石公の墓碑があり、駒ヶ岳を望む中山道沿いのひっそりとした場所に建立されています。しかし周辺は大樹に囲まれ、また案内看板が無いこともあり観光客からは見つけ難い状況にありました。

本事業により墓碑周辺の環境整備や案内説明看板を設置することで、中山道から出入りをし易くし旅ゆく方々の思いをかきたて来訪者の増加につなげ、さらに宮ノ越宿全体への入込客数の増加を図ることを目的に実施しました。

- (1) 樹木剪定搬出処分 1式
- (2) 不陸整備・砕石敷き 23.5㎡
- (3) 看板整備 サインB-2タイプ (英語標記あり)
- (4) 木柵設置 L=10m H=1500mm

事業効果

○最終的な目標数値 5,000人ですが、H30目標 2,000人に対し実績は1,455人となりました。

福島宿の山村代官屋敷には、駒石の書斎であったものを移築した「翠山楼」がありますが、中山道史跡それぞれの関係性が築かれており、南進及び北進のどちらのルートの場合も墓碑周辺の整備と案内説明板を設置することにより、駒石に関わりのある宮ノ越宿から福島宿へ、福島宿から宮ノ越宿へと旅ゆく方々の思いをかきたて双方の来訪者の増加につなげていきます。

今後の取り組み

街道歩きをされる方の多くは、古くからの街並みや風景、建物や史跡を巡り、当時に思いを馳せることを楽しみとしています。今後の取り組みは、建物、史跡間の繋がりを強くすることで、街道歩きされる方へ更なる魅力を提供する可能を探って行きたいと存じます。



【整備後の墓碑】

【目標・ねらい】

入込客数の増加

○宮ノ越宿入込客の増加
指標を宮ノ越宿の入込客数と設定し、本陣と田中家の来場者数の年度内合計としました。

※自己評価【 A 】

【理由】

宮ノ越宿入込客数の増加を目標とする指標としておりますが、H31年の目標 2200人に対し、30年度の実績 1,455人から更に上積みが見込まれ、来年度目標を上回ることが予想されることから、本事業による自己評価をAとしました。